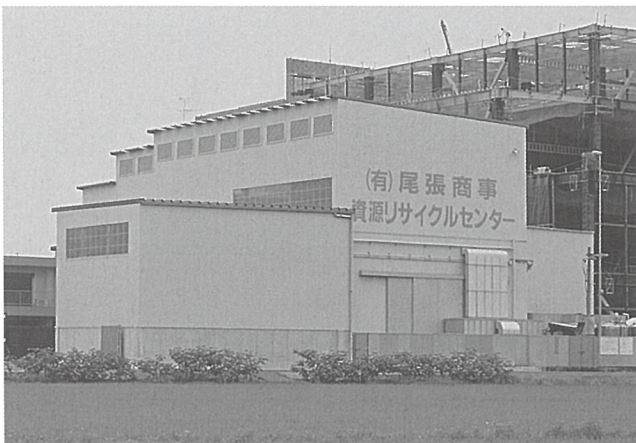


企業訪問 循環型最前線レポート

(有)尾張商事

ループ構築を見据えた 堆肥化事業に本腰

(有)尾張商事



有限会社 尾張商事

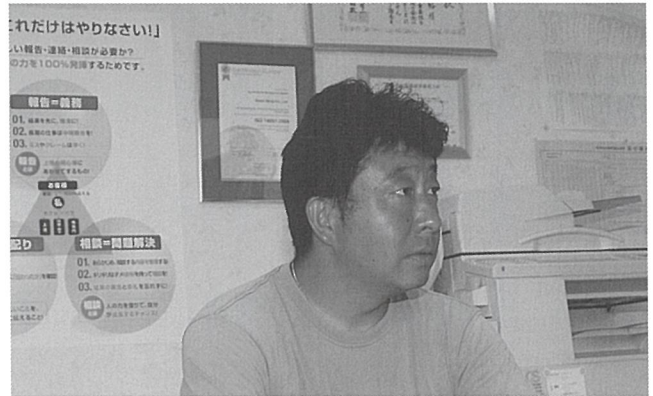
■代表者／山崎 真裕・山崎 永嗣

■所在地／愛知県稲沢市祖父江町山崎柳69番地

TEL：(0587) 97-0691 FAX：(0587) 97-1953

見える処理で安心・安全をアピール

発酵による堆肥化で産業廃棄物処分業の許可を取得した尾張商事は、排出側の多様なニーズにこたえています。



循環ビジネスへの夢を語る山崎社長

社長の山崎永嗣氏は「当社は『分ければ資源 混ぜればゴミ』をキーワードに、リサイクル率向上を目指し、廃棄物処理業者の立場から様々な提案をしています。

その1つとして新たに堆肥化事業に乗り出しました。発酵のための新施設は平成24年4月30日に本社敷地内に設置し、ちょうど1年くらいになります。発酵による堆肥化で産業廃棄物処理業の許可を取得したのは6月です。



温風を出しながら2軸のスクリューで攪拌



底部に敷設されたエアレーション

攪拌機は24時間稼働で、スタッフ3人で担当し、処理能力は1日当たり51.1立方メートルです。

この発酵のための攪拌機は北海道から九州まで、全国を飛び回って検討した結果、天神製作所（宮崎県都城市）製のものを導入しました。この攪拌機は、温風を出しながら回転する2軸のスクリューと、底部からのエアレーションで原料の攪拌を行い発酵を促すものです。

堆肥の原料は食品工場から発生する汚泥や食品残渣を活用しています。現在は、京都、富山などの飲料工場からコーヒーかすを1日当たり約20立方メートル受け入れて用いています。」とシステムの説明を受けた後、天井から太陽の光をたっぷり取り込む明るい処理施設を見学しました。

システムは確立されているものの、発酵の進み具合などは山崎氏の感覚に託されている部分も多く、発酵の進んでいる堆肥を手で確かめ、堆肥の状態を常に見守る山崎氏の姿が見られました。

堆肥化事業への取り組みについて山崎社長は「産業廃棄物の中間処理事業を柱に、廃プラスチック類や紙くず、木くず、繊維くず、茶・コーヒーかす、ゴムくず、金属くず、ガラス及び陶磁器くずなど幅広い品目の再資源化に貢献してきましたが、排出事業者側から『見える処理』に対するニーズがあったので、これまでの脱水処理に加え、食品リサイクル

ループの構築を見据えた堆肥化事業に着手しました。

現在は実験農園を使って玉ねぎやブルーベリー、ゆず、みかんなどを栽培しています。先日はバローの青果担当の方が訪ねてきてくれました。来年にはバローに並ぶかもしれません。今後は葉物など栽培する農作物の種類を増やしていきたいと思っています。

また、近隣の田畑の方からも分けてほしいという声をかけていただくことがあります。そんな時には堆肥を作る過程を原料から見てもらっています。常時入口を開けて、オープンな産廃屋をめざしていますから、時には口コミを聞いてふらっとやってくる人もいますし、使っていただいた方には米の味が変わったといわれます。

私どもの堆肥は原料を厳選していますから、搬入されたときに分析表のデータと違った場合は断っています。原料にこだわる厳選材料だから出来上がりも安心・安全できれいな堆肥となっています。もちろんにおいも気にならないといわれます。」と出来がりの堆肥の品質にも自信をのぞかせていました。

こうした一つひとつの過程に真摯に取り組み、ループによる「処理の見える化」で、排出側にも安心・安全をアピールする尾張商事、山崎社長の今後のさらなる発展を期待しています。



おが粉を混ぜて攪拌した原料



完成した堆肥